

## 書 評・紹 介

曲格平 李金昌著

### 『中国人口与環境』

中国環境科学出版社 1992年5月 237頁(中文)

中国における環境問題が、その深刻性および日本への影響(酸性雨や黄砂が日本にまでとび松を枯らせるなどの害が判明している)が指摘され大きな問題となっている。また中国の生態環境は、12億という巨大人口問題とも密接に関連し、貧困・少数民族問題ともときほぐしがたく存在しているところに特色がある。

本書は、その限りなく大きな国家的・日中間で問題になっている「中国の人口と環境」について初めて総括的メスをいれた中国人によって書かれた、歴史に残る大書である。

著者の曲格平は、国務院の前環境保護局局長、現在は中国全国人民代表大会環境保護委員会委員長、中国環境科学会理事長、当代環境と経済政策研究センター副理事長兼主任があり、中国の環境研究・行政面の第一人者である。

評者若林は、1975年6月7日、今から19年前の文化大革命中、東京で曲格平にあい、中国の環境問題に啓発されたことを今もよく覚えている。その時の講演内容は「中国の環境問題の現状と施策—研究会“中国環境保護考察団”を開んで—」として人間環境問題研究会(会長は加藤一郎成城学園園長)編『アジア諸国の環境問題と法規制』環境法研究 第6号 1976年6月 有斐閣の中に収録されている。その後も国連人口フォーラムなどに来日出席している。

李金昌は、国家環境保護局環境と経済政策研究センター教授、国家環境保護局顧問、中国環境科学会常務理事であり、長らく曲と研究をともにしてきた。馬洪主編『2000年の中国』で王慧炯、李泊溪らと共同執筆している。清華大学電気系出身で国連環境計画(UNEP)ケニア本部で中国代表として滞在した経験を持ち、日本での知己が多い。1994年2月8日には、5度目の来日をして「環境と開発を考える市民フォーラム」で「中国の環境問題およびその対策について講演した。

さて本書の構成は、以下13章、237頁におよぶ。

- |                          |                        |
|--------------------------|------------------------|
| 第1章 序論                   | 第2章 中国歴史上からみた人口と環境について |
| 第3章 当代中国人口と環境の基本国情       | 第4章 中国人口と土地資源          |
| 第5章 中国人口と森林資源            | 第6章 中国人口と草地資源          |
| 第7章 中国人口と鉱産資源            | 第8章 中国人口と水資源           |
| 第9章 中国人口とエネルギー           | 第10章 中国人口と生活環境         |
| 第11章 中国人口と環境の関係についての総合分析 | 第12章 人口増加抑制と生態環境       |
| 第13章 生存から持続発展へ           | 参考文献                   |

ところで日本の酸性雨の原因の一つとされている中国の二酸化硫黄(SO<sub>2</sub>)の排出量が、2000年にはアメリカ合衆国を抜いて世界一の年間2300万トンに達するなど、深刻な見通しが報告されている。

中国の環境政策は、70年代初頭から実施され始めたのであるが、当時中国の環境汚染および生態系破壊はすでに深刻なところまで進んでいた。1973年から90年にかけて中国の環境保護は、「三廃」対策から総合的な環境管理体系の確立へと次第に発展してきた。そしていま中国では、人口抑制と環境保護とをセットにして“目標管理責任制”のもとに長期的堅持される基本的国策としてとりくまれている。

著者自身が記しているように、本書は「まだ初歩的模索であるが、…より優れた研究を引き出すための誘い水の役割を果たすことを願う」。中国人口研究にとっても、環境との相互分析を行うにあたり、絶好の導き書であることに相異なる。(若林敬子)